

．調査の結果

第1節 農業の活性化と農村環境の保全について

1-1 取り組みに対する評価（問23）

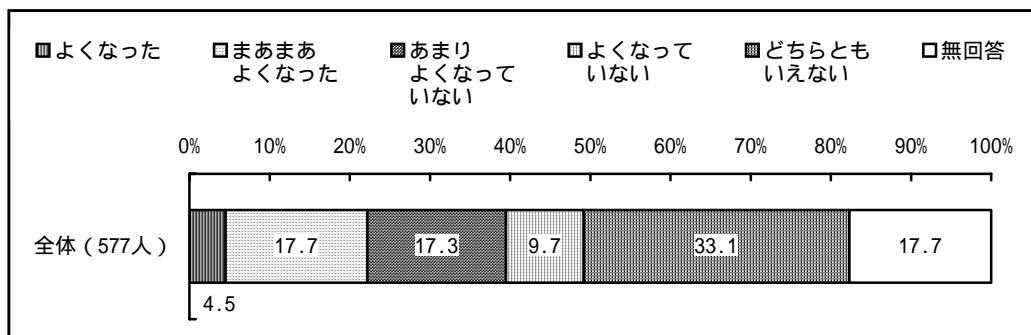
「農業の活性化と農村環境の整備」は、“よくなった”が約2割、“よくなっていない”が約3割。

農地の整備や農業経営の安定、農村生活環境の整備など、農業の活性化と農村環境の整備については「よくなった」が4.5%、「まあまあよくなった」が17.7%で、あわせると“よくなった”が22.2%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が17.3%、「よくなっていない」が9.7%で、あわせると“よくなっていない”が27.0%です。

図 農業の活性化と農村環境の整備

（回答者総数：577人）



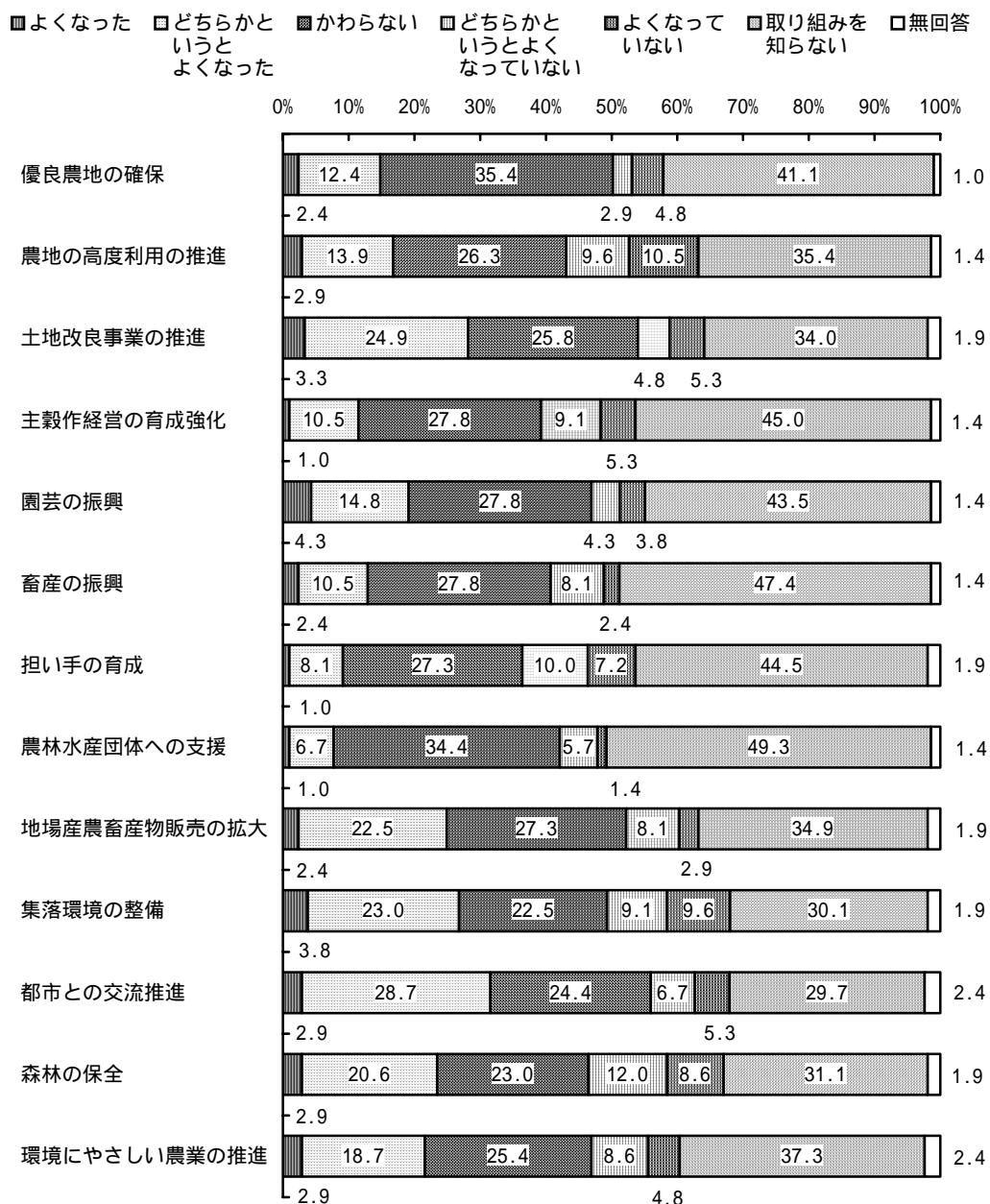
1-2 施策に対する満足度（満足度評価）

「取り組みを知らない」が『都市との交流推進』を除いたすべての項目で3割以上を占め、全体的に施策の周知度が低い。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて「よくなった」が、すべて4割を下回っており、特に評価が低いのは『園芸の振興』では19.1%、『農地の高度利用の推進』では16.8%、『優良農地の確保』では14.8%、『畜産の振興』では12.9%、『主穀作経営の育成強化』では11.5%と2割を下回り、さらに、『担い手の育成』では9.1%、『農林水産団体への支援』では7.7%と1割を下回っています。

また、「取り組みを知らない」が、『都市との交流推進』を除いたすべての項目で3割以上を占めており、全体的に施策の周知度が低くなっています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：209人)



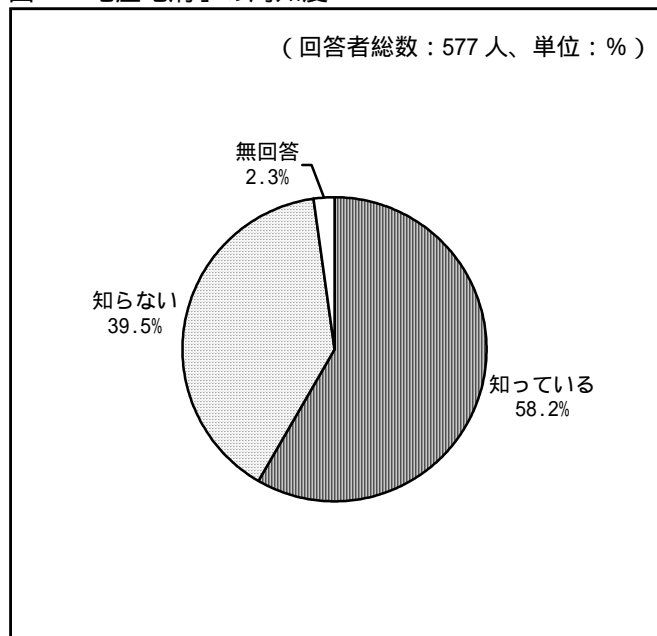
1-3 関連設問

(1) 「地産地消」の周知度(問7)

知っている人は約6割。

地域でとれた農畜産物を地域で消費するという考え方「地産地消」の周知度については、「知っている」が58.2%で、「知らない」が39.5%となっています。

図 「地産地消」の周知度

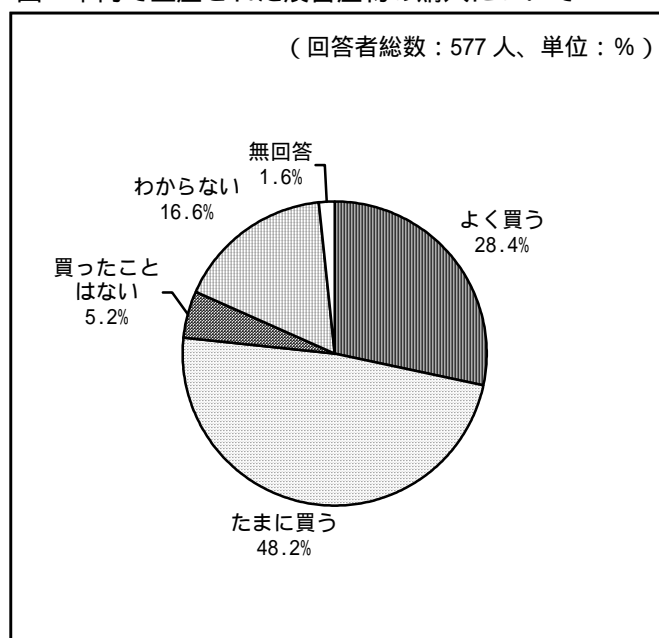


(2) 市内で生産された農畜産物の購入について(問8)

購入している人は約8割。

市内で生産された農畜産物を購入しているかについては、「よく買う」が28.4%、「たまに買う」が48.2%で、あわせるとふだん購入している人は76.6%になります。

図 市内で生産された農畜産物の購入について

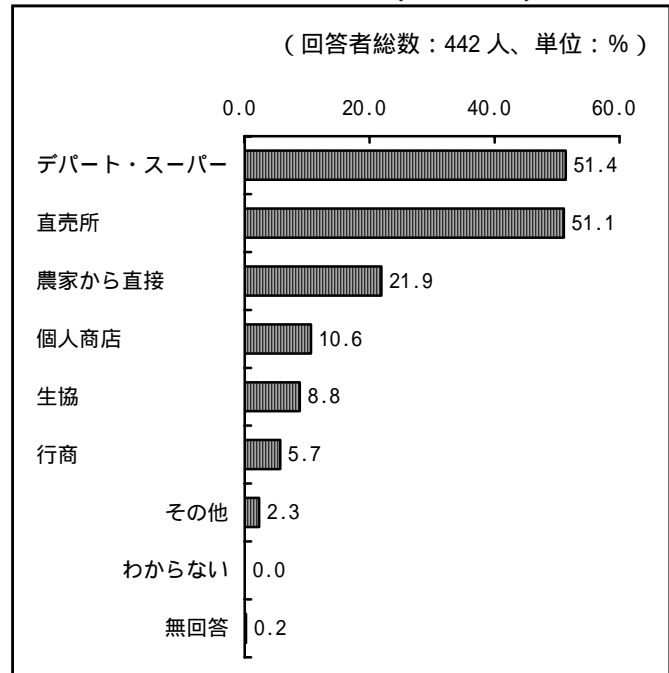


(3) 佐倉市の農畜産物の購入先(問8-1)

「デパート・スーパー」と「直売所」が、それぞれ5割を超えて高い。

佐倉市の農畜産物を買っていると答えた人に、どこで購入したかをたずねたところ、「デパート・スーパー」が51.4%、「直売所」が51.1%となっており、この2項目が高くなっています。

図 佐倉市の農畜産物の購入先(複数回答)

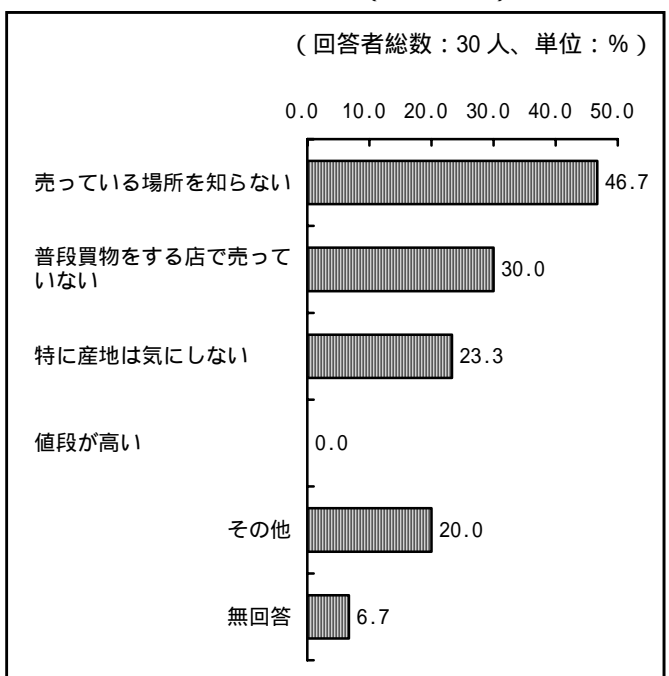


(4) 購入したことがない理由(問8-2)

「売っている場所を知らない」が約5割で最も高い。

佐倉市の農畜産物を購入したことがない人に、その理由をたずねたところ、「売っている場所を知らない」が46.7%で最も高く、次いで「普段買物をする店で売っていない」が30.0%となっています。

図 購入したことがない理由(複数回答)

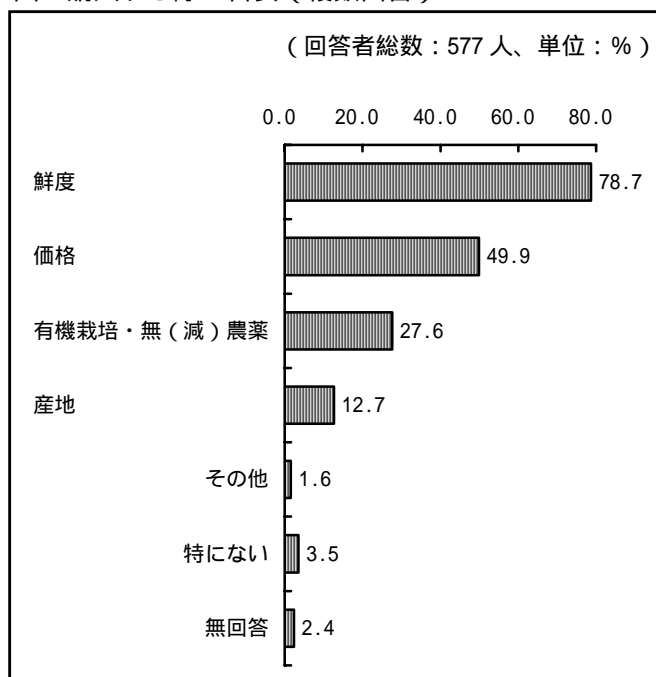


(5) 購入する際の目安(問9)

「鮮度」が圧倒的に高い。

農畜産物を購入する際、目安にしていることについては、「鮮度」が78.7%で圧倒的に高くなっています。次いで、「価格」が49.9%、「有機栽培・無(減)農薬」が27.6%となっています。

図 購入する際の目安(複数回答)



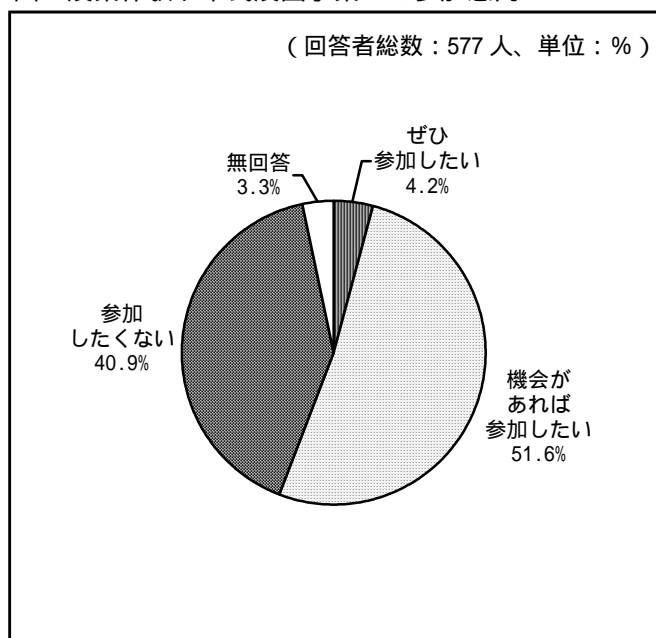
(6) 農業体験や市民農園事業への参加意向(問10)

参加意向のある人は約6割。

市で実施している農業体験や市民農園などの事業への参加意向については、「ぜひ参加したい」が4.2%、「機会があれば参加したい」が51.6%で、あわせると参加意向のある人は55.8%です。

一方、「参加したくない」は40.9%です。

図 農業体験や市民農園事業への参加意向

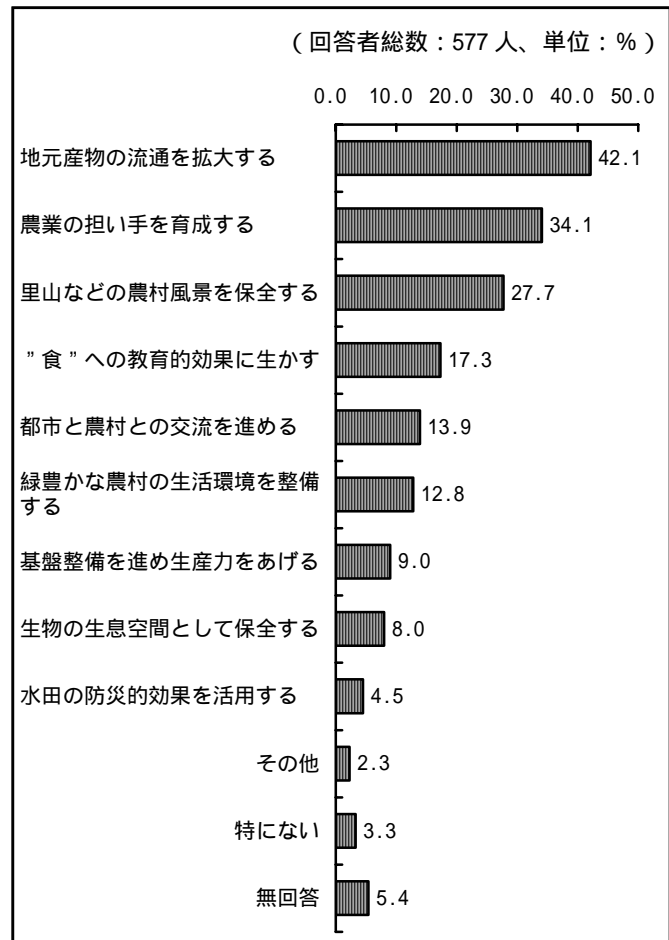


(7) 農業を推進していくうえで重要なこと(問11)

「地元産物の流通を拡大する」が約4割で最も高い。

農業や農地は農畜産物を生産する役割だけでなく、その他にも多面的な役割を担っています。今後、佐倉市の農業を推進していくうえで重要だと思うことについては、「地元産物の流通を拡大する」が42.1%で最も高くなっています。次いで、「農業の担い手を育成する」が34.1%、「里山などの農村風景を保全する」が27.7%と続いています。

図 農業を推進していくうえで重要なこと(複数回答)



第2節 地域の特色を活かした商業環境の整備について

2-1 取り組みに対する評価（問23）

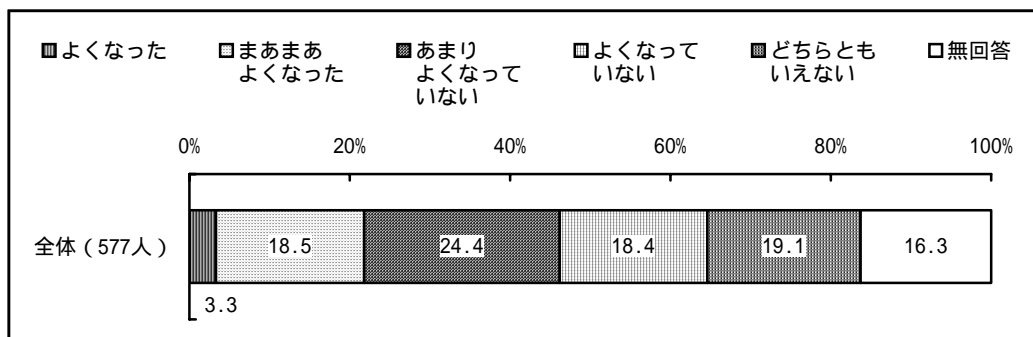
「商業環境の整備」は、「よくなった」が約2割、「よくなっていない」が約4割。

商業地の整備や商店街活性化、商業団体の支援など、商業環境の整備については「よくなった」が3.3%、「まあまあよくなった」が18.5%で、あわせると「よくなった」が21.8%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が24.4%、「よくなっていない」が18.4%で、あわせると「よくなっていない」が42.8%です。

図 商業環境の整備

（回答者総数：577人）



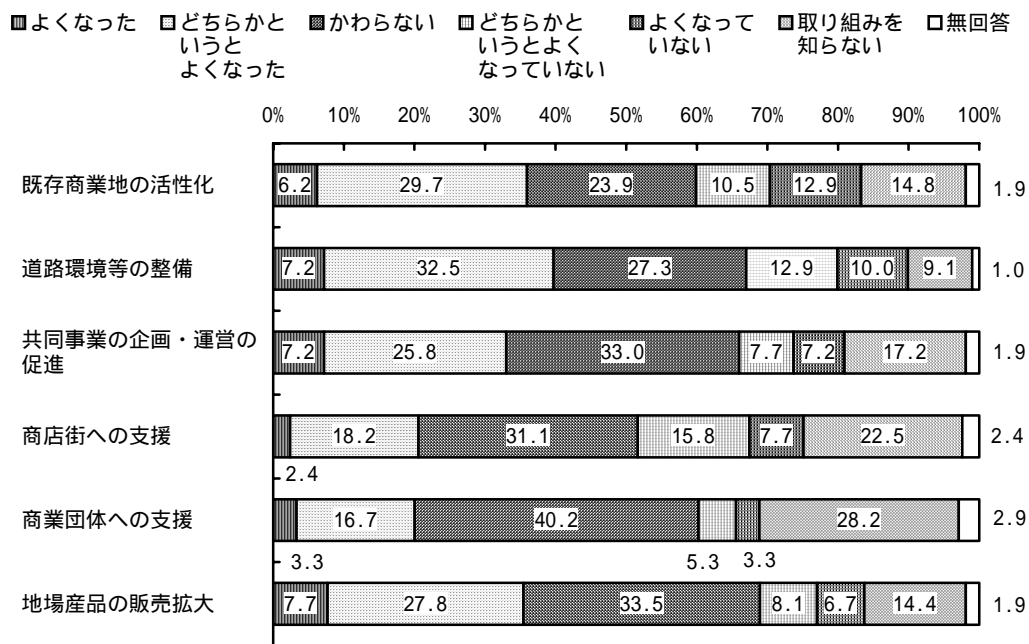
2-2 施策に対する満足度（満足度評価）

特に評価が低いのは『商店街への支援』と『商業団体への支援』で2割程度。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて「よくなった」がすべて4割を下回っており、特に評価が低いのは『商店街への支援』で20.6%、『商業団体への支援』で20.0%と2割程度となっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：209人）



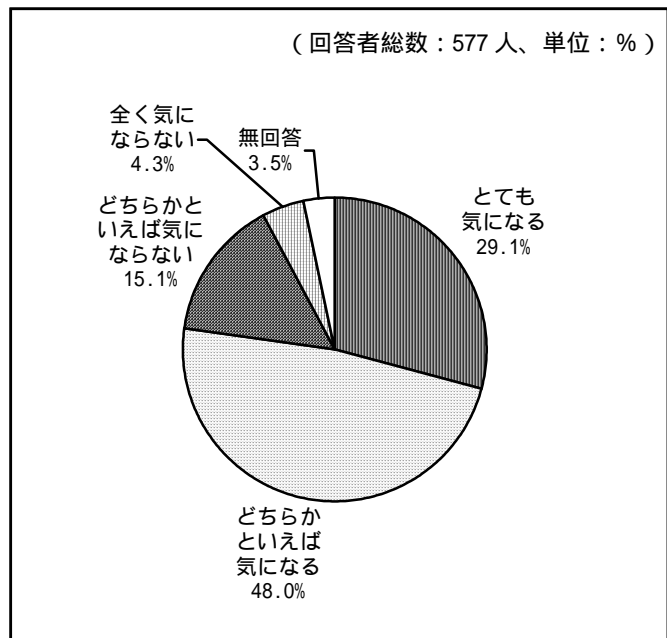
2-3 関連設問

(1) 地域の空き店舗について(問12)

「気になる」という人は約8割を占める。

住んでいる地域において、廃業等による空き店舗が気になるかどうかについては、「とても気になる」が29.1%、「どちらかといえば気になる」が48.0%で、あわせると「気になる」という人は77.1%です。

図 地域の空き店舗について

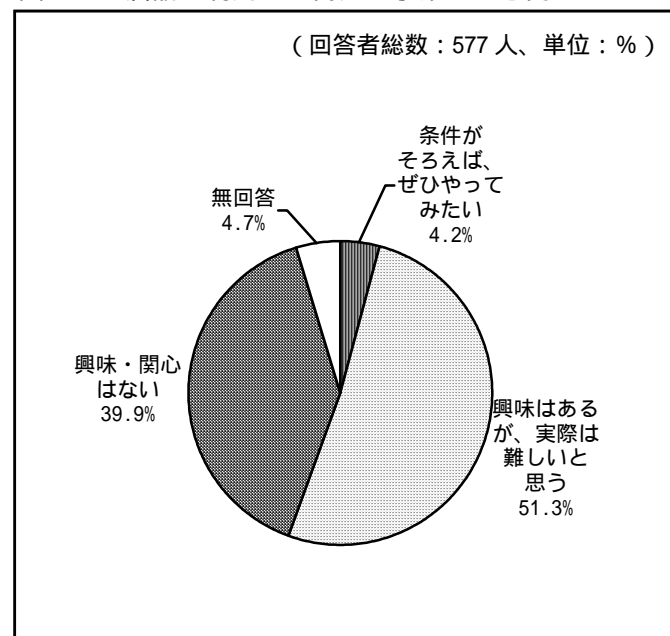


(2) 空き店舗を利用した商売や事業への意向(問13)

「興味はあるが、実際は難しい」が約5割。

起業者の育成と街の賑わいを創出するため、市や商店会等が空き店舗を借り上げて低廉で貸し出し、商業者の育成を図る事業が各地で行われています。市内の空き店舗等を活用して、商売や事業などをやってみたいと思うかについては、「条件がそろえば、ぜひやってみたい」は4.2%です。また、「興味はあるが、実際は難しいと思う」が51.3%を占めています。

図 空き店舗を利用した商売や事業への意向

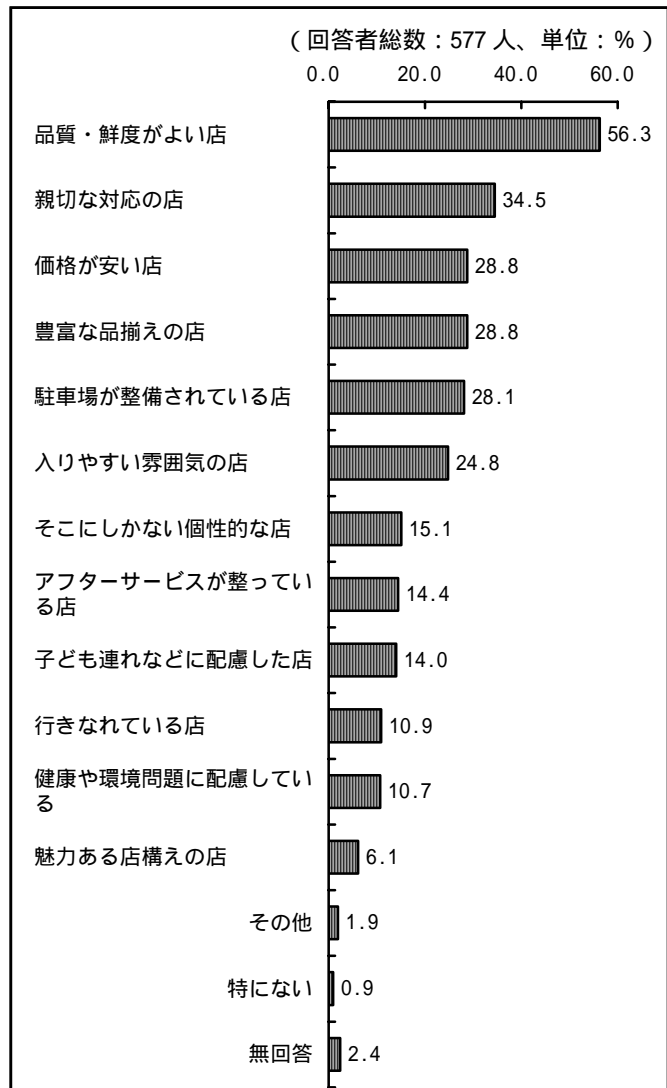


(3) 魅力的だと思う商店(問14)

「品質・鮮度がよい店」が約6割で最も高い。

身近な商店として、どのような店が魅力的かについては、「品質・鮮度がよい店」が56.3%で最も高くなっています。次いで、「親切な対応の店」が34.5%、「価格が安い店」と「豊富な品揃えの店」が同率で28.8%、「駐車場が整備されている店」が28.1%と続いています。

図 魅力的だと思う商店(複数回答)

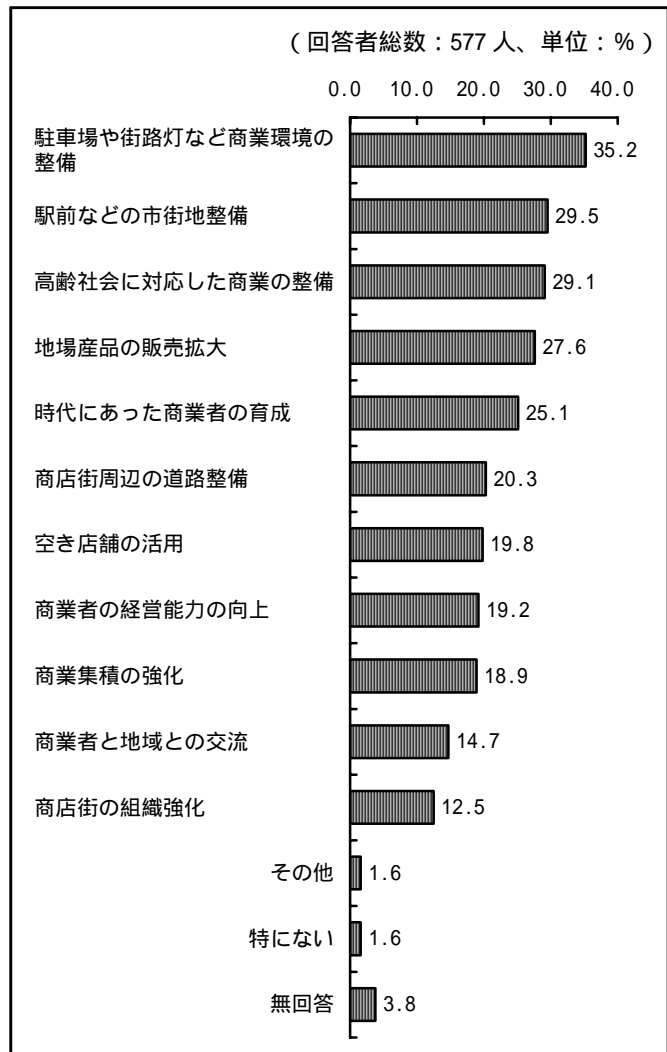


(4) 商業を発展させるために重要なこと(問15)

「駐車場や街路灯など商業環境の整備」が約4割で最も高い。

市内の商業を発展させていくためにどのような取り組みが必要かについては、「駐車場や街路灯など商業環境の整備」が35.2%で最も高くなっています。次いで、「駅前などの市街地整備」が29.5%、「高齢社会に対応した商業の整備」が29.1%と続いています。

図 商業を発展させるために重要なこと(複数回答)



第3節 生産環境の整備と新しい工業への対応について

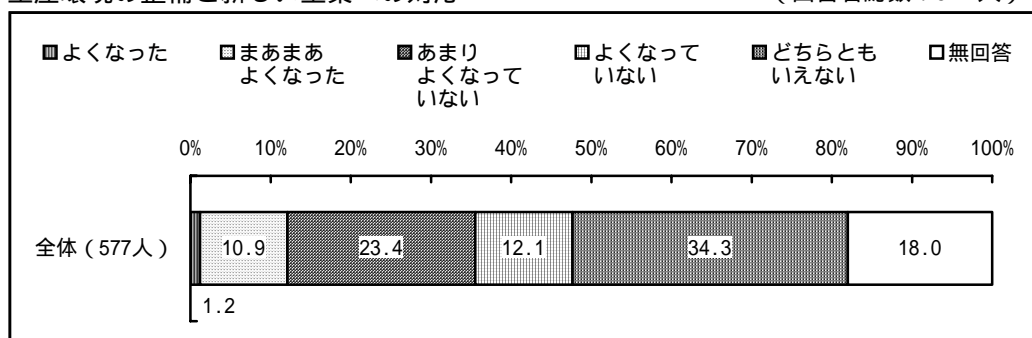
3-1 取り組みに対する評価（問23）

「生産環境の整備と新しい工業への対応」は、“よくなった”が約1割、“よくなっていない”が約4割。

優良先端産業の誘致や融資制度の充実など、生産環境の整備と新しい工業への対応については「よくなった」が1.2%、「まあまあよくなった」が10.9%で、あわせると“よくなった”が12.1%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が23.4%、「よくなっていない」が12.1%で、あわせると“よくなっていない”が35.5%です。

図 生産環境の整備と新しい工業への対応 (回答者総数：577人)



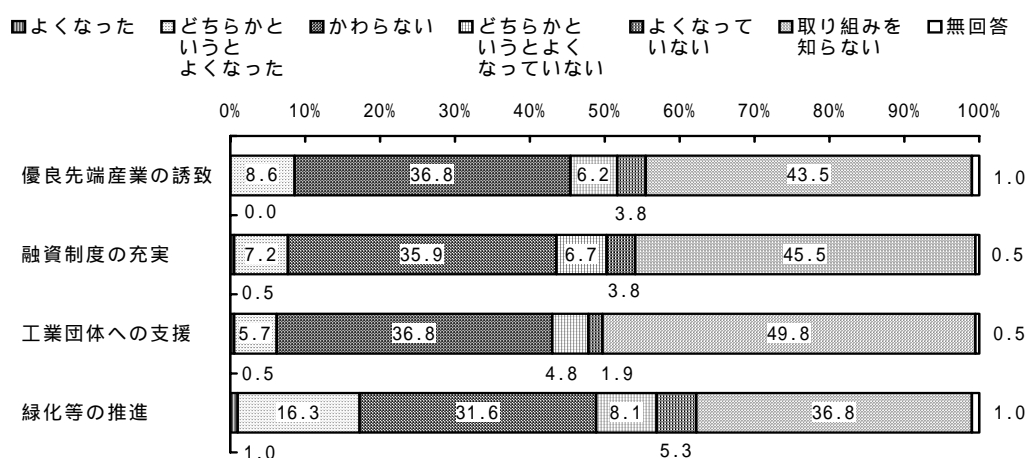
3-2 施策に対する満足度（満足度評価）

「取り組みを知らない」がすべての項目で3割以上を占めており、全体的に施策の周知度が低い。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”がすべて2割を下回っており、『緑化等の推進』では17.3%、さらに、『優良先端産業の誘致』で8.6%、『融資制度の充実』で7.7%、『工業団体への支援』で6.2%と1割を下回っています。

また、「取り組みを知らない」がすべての項目で3割以上を占めており、全体的に施策の周知度が低くなっています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：209人)



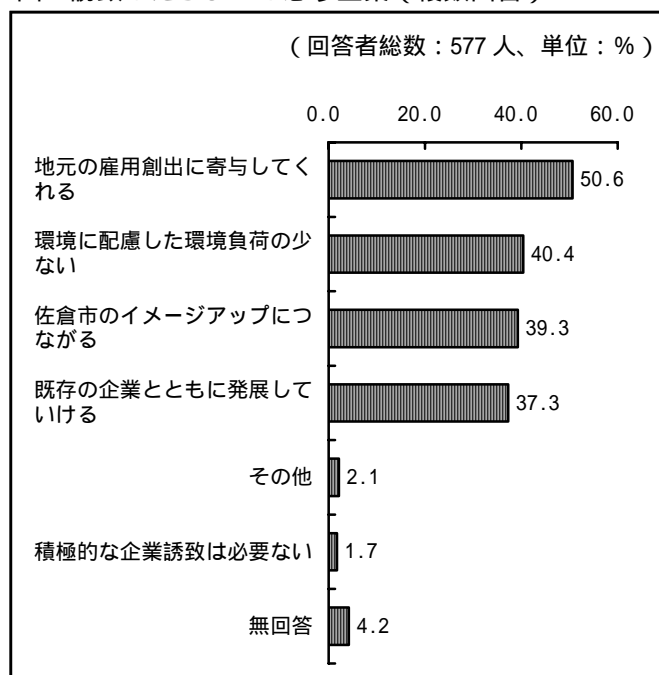
3-3 関連設問

(1) 誘致したらよいと思う企業 (問17)

「地元の雇用創出に寄与してくれる」企業が約5割で最も高い。

市内には、様々な企業が立地しており地域経済の活性化に寄与しています。今後、市内にどのような企業を誘致したらよいと思うかについては、「地元の雇用創出に寄与してくれる」企業が50.6%で最も高くなっています。次いで、「環境に配慮した環境負荷の少ない」企業が40.4%、「佐倉市のイメージアップにつながる」企業が39.3%と続いています。

図 誘致したらよいと思う企業 (複数回答)



第4節 多様な就労機会の充実について

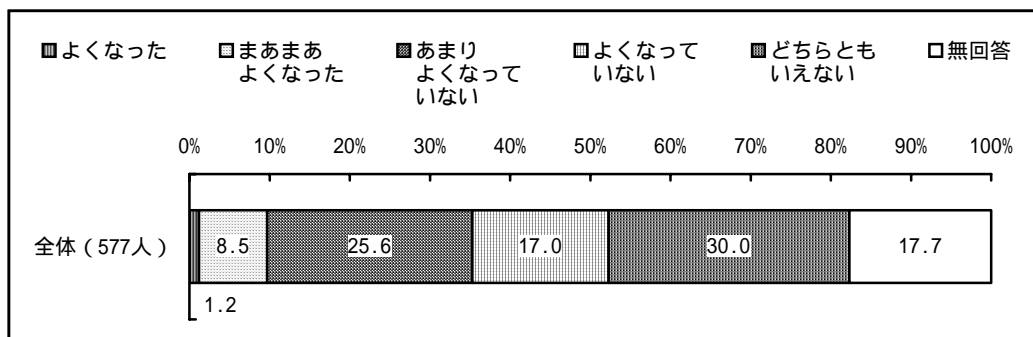
4-1 取り組みに対する評価（問23）

「多様な就労機会の充実」は、「よくなった」が約1割、「よくなっていない」が約4割。

就労機会の拡充や技能習得の充実など、多様な就労機会の充実については「よくなった」が1.2%、「まあまあよくなった」が8.5%で、あわせると「よくなった」が9.7%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が25.6%、「よくなっていない」が17.0%で、あわせると「よくなっていない」が42.6%です。

図 多様な就労機会の充実 (回答者総数：577人)



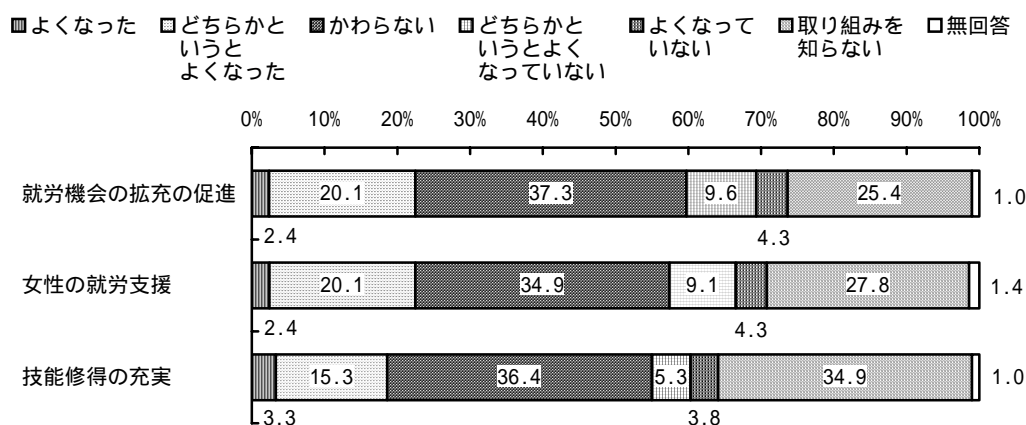
4-2 施策に対する満足度（満足度評価）

特に評価が低いのは『技能習得の充実』で周知度も低い。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた「よくなった」がすべて3割を下回っており、特に評価が低いのは『技能習得の充実』で18.6%と2割を下回っています。

また、「取り組みを知らない」が『技能習得の充実』で3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：209人)



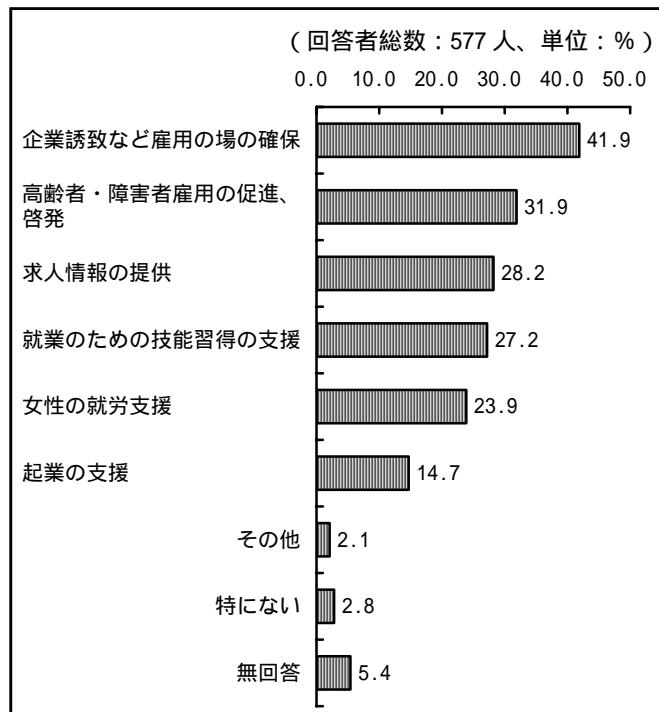
4-3 関連設問

(1) 雇用対策として必要な取り組み(問16)

「企業誘致など雇用の場の確保」が約4割で最も高い。

市の雇用対策としてどのような取り組みが必要だと思うかについては、「企業誘致など雇用の場の確保」が41.9%で最も高くなっています。次いで、「高齢者・障害者雇用の促進、啓発」が31.9%、「求人情報の提供」が28.2%と続いています。

図 雇用対策として必要な取り組み(複数回答)



第5節 観光資源の活用と観光施設・サービス等の充実について

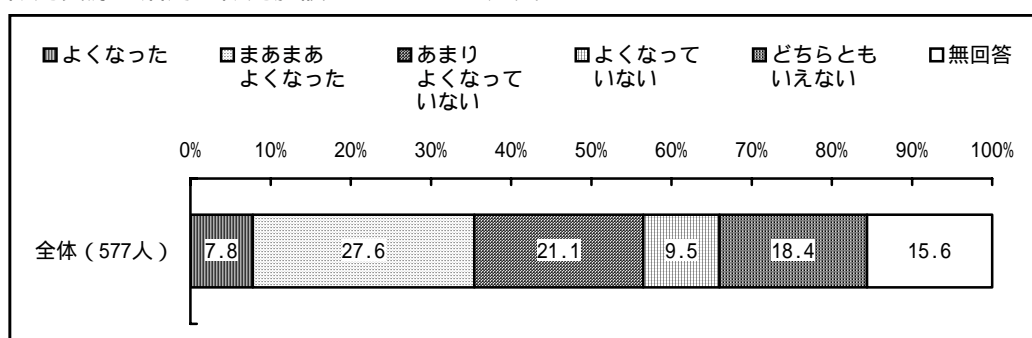
5-1 取り組みに対する評価（問23）

「観光資源の活用と観光施設・サービス等の充実」は、「よくなった」が約4割、「よくなっていない」が約3割。

印旛沼周辺観光の充実や歴史的建造物の活用など、観光資源の活用と観光施設・サービス等の充実については「よくなった」が7.8%、「まあまあよくなった」が27.6%で、あわせると“よくなった”が35.4%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が21.1%、「よくなっていない」が9.5%で、あわせると“よくなっていない”が30.6%です。

図 観光資源の活用と観光施設・サービスの充実 (回答者総数：577人)



5-2 施策に対する満足度（満足度評価）

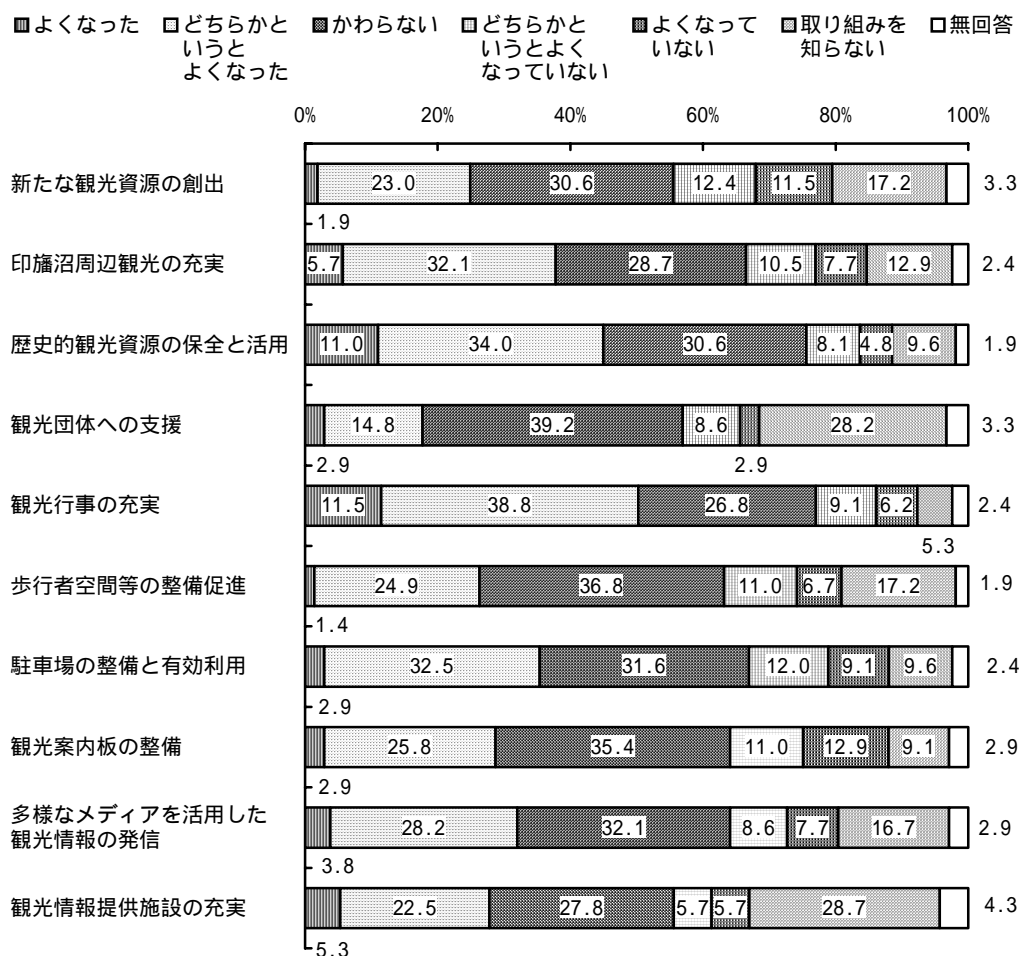
“よくなった”が『観光行事の充実』では5割以上、また、『歴史的観光資源の保全と活用』では4割以上と評価が高い。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『観光行事の充実』では50.3%と5割以上を占め高い評価を得ています。また、『歴史的観光資源の保全と活用』では45.0%と4割以上を占めています。

その一方、『観光団体への支援』では17.7%と2割を下回り評価が低くなっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：209人）



5-3 関連設問

(1) 地域施設等の周知度 (問18)

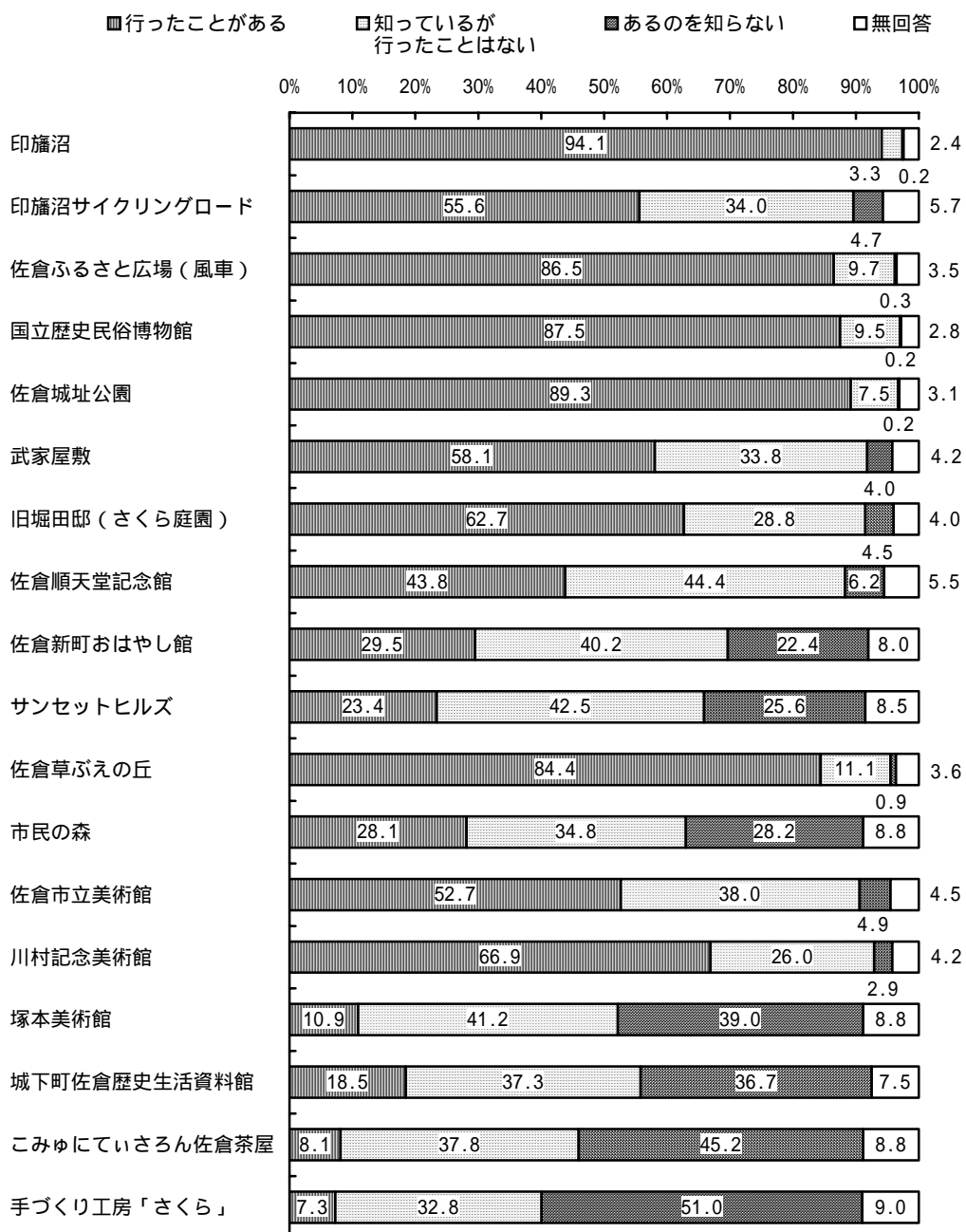
『印旛沼』や『佐倉城址公園』、『国立歴史民俗博物館』は約9割の人が訪れたことがある。

地域の施設等の訪問状況と周知度についてたずねました。その結果、「行ったことがある」が高かったのは、『印旛沼』(94.1%)、『佐倉城址公園』(89.3%)、『国立歴史民俗博物館』(87.5%)、『佐倉ふるさと広場(風車)』(86.5%)、『佐倉草ぶえの丘』(84.4%)でした。

また一方、「あるのを知らない」という回答が高く、周知度が低かったのは、『手づくり工房「さくら」』(51.0%)、『こみゆにていさろん佐倉茶屋』(45.2%)、『塚本美術館』(39.0%)でした。

図 地域施設等の周知度

(回答者総数: 577人)

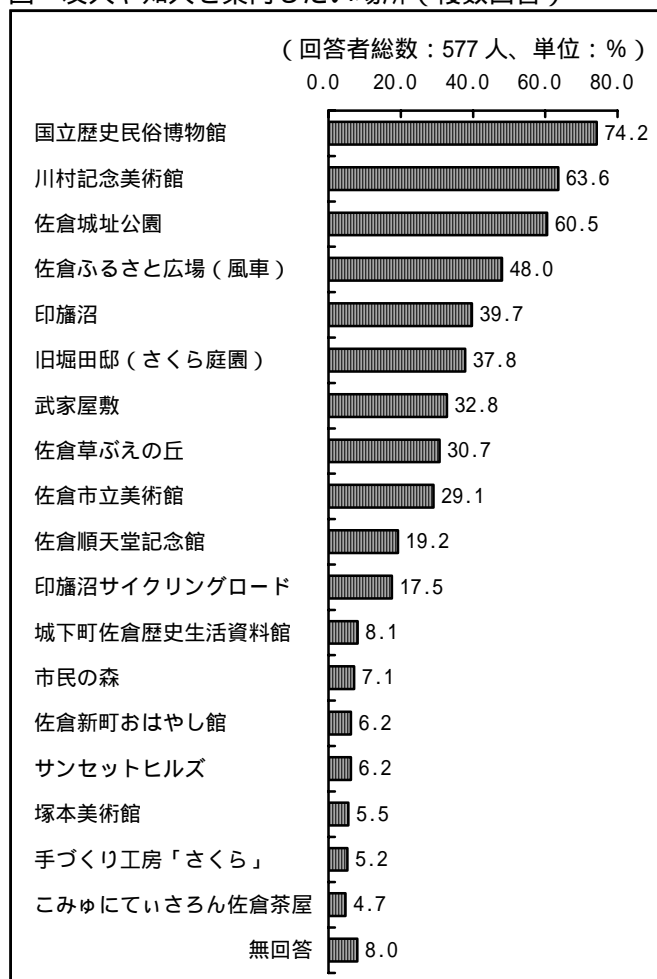


(2) 友人や知人を案内したい場所(問19)

「国立歴史民俗博物館」が約7割で最も高い。

友人・知人などを案内したいと思う場所を、問18の主な施設等の中から選択してもらったところ、「国立歴史民俗博物館」が74.2%で最も高くなっています。次いで、「川村記念美術館」が63.6%、「佐倉城址公園」が60.5%と続いています。

図 友人や知人を案内したい場所(複数回答)



(3) 地域のイベントの周知度(問20)

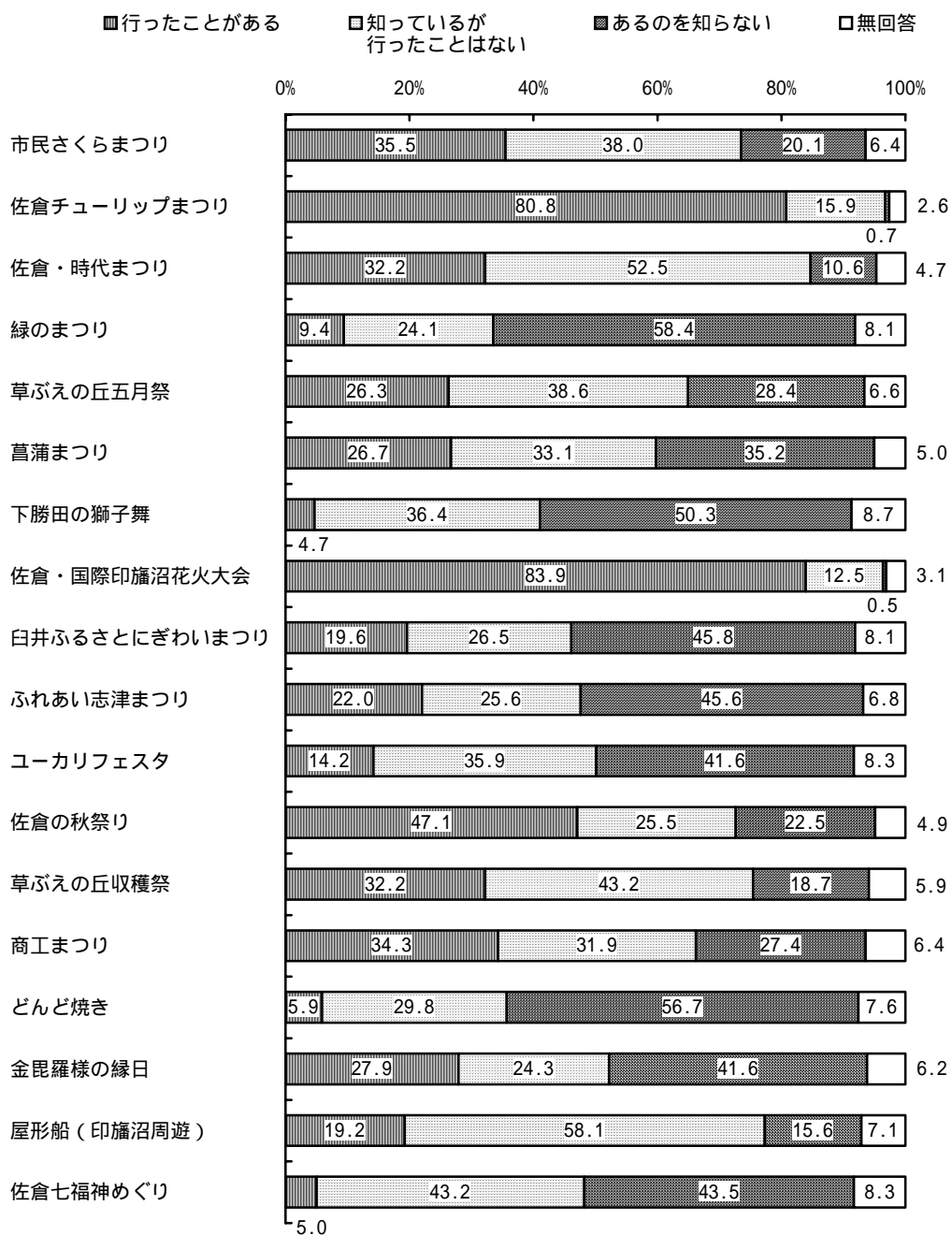
『佐倉・国際印旛沼花火大会』と『佐倉チューリップまつり』は、約8割の人が行ったことがある。

地域のイベント等の訪問・参加状況と周知度についてたずねました。その結果、「行ったことがある」が高かったのは、『佐倉・国際印旛沼花火大会』(83.9%)と『佐倉チューリップまつり』(80.8%)の2項目でした。

また一方、「あるのを知らない」という回答が高く、周知度が低いのは、『緑のまつり』(58.4%)、『どんど焼き』(56.7%)でした。

図 地域のイベントの周知度

(回答者総数: 577人)

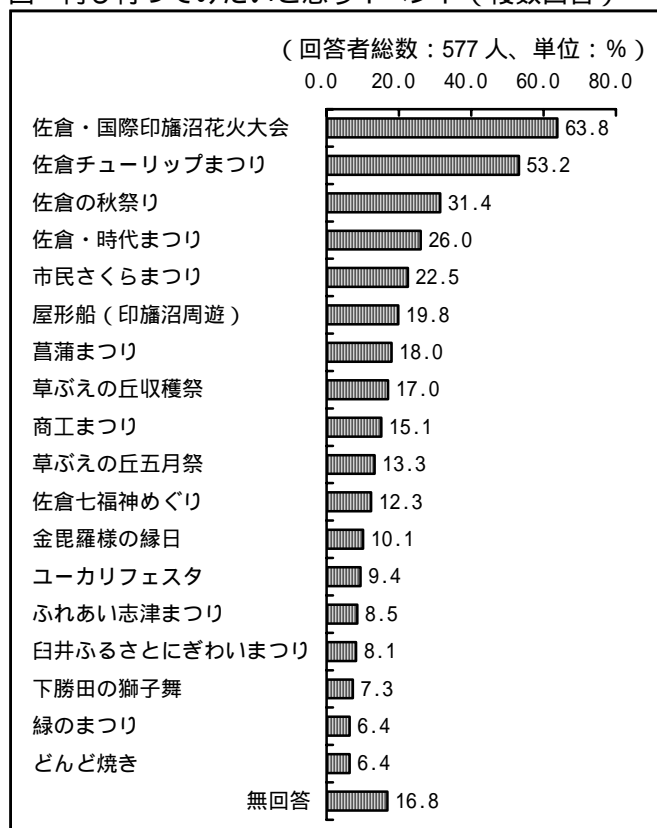


(4) 再び行ってみたいと思うイベント(問21)

「佐倉・国際印旛沼花火大会」がトップ、次いで「佐倉チューリップまつり」。

ぜひまた行ってみたいと思うイベントを、問20の主なイベントの中から選択してもらったところ、「佐倉・国際印旛沼花火大会」が63.8%で最も高く、次いで「佐倉チューリップまつり」が53.2%です。訪問・参加状況の結果と同様な項目が上位となっています。

図 再び行ってみたいと思うイベント(複数回答)

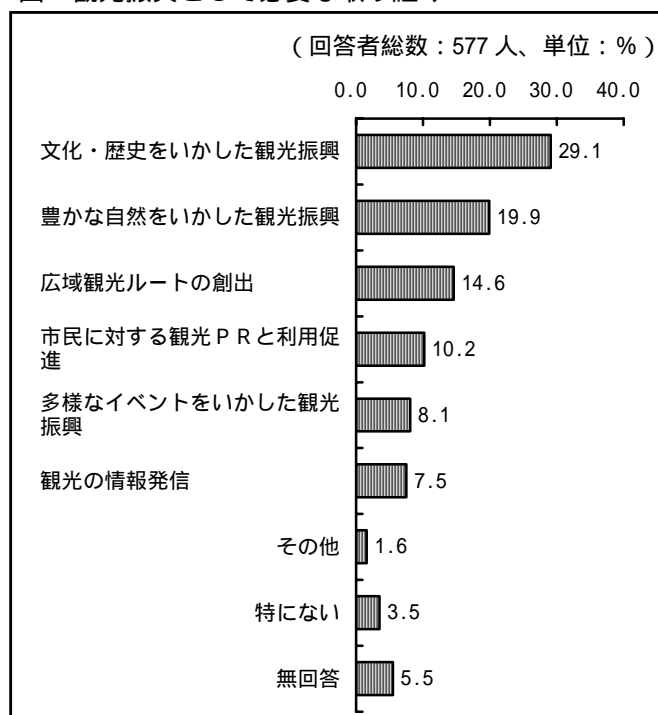


(5) 観光振興として必要な取り組み(問22)

「文化・歴史をいかした観光振興」が約3割で最も高い。

市の観光振興として、今後どのような取り組みが必要だと思うかについては、「文化・歴史をいかした観光振興」が29.1%で最も高くなっています。次いで、「豊かな自然をいかした観光振興」が19.9%、「広域観光ルートの創出」が14.6%と続いています。

図 観光振興として必要な取り組み



第6節 重点的に取り組むべき施策

6-1 重点的に取り組むべき施策（問24）

「商業環境の整備」が最も高く、次いで「観光資源の活用など」が続く。

「産業経済」について、これからの5年間（平成18年度～22年度）重点的に取り組むべき施策をたずねたところ、商業地の整備や商店街の活性化など「商業環境の整備」が40.4%で最も高くなっています。次いで、印旛沼周辺観光の充実や歴史的建造物の活用など「観光資源の活用など」が38.3%が続いています。

図 重点的に取り組むべき施策（複数回答）

